

■ 衝突軽減ブレーキ (CMBS)

衝突軽減ブレーキ (CMBS) は、自車が前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車(移動する自転車)に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

CMBSが作動する条件と作動対象は、以下の通りです。

■ 直進時

自車の速度が約5km/h以上かつ、作動対象との速度差が約5km/h以上のとき

- ・前走する車両 (二輪車含む)

自車の速度が約5-100km/hかつ、作動対象との速度差が約5km/h以上のとき

- ・停止している車両 (二輪車含む)、対向する車両、交差する車両、歩行者、移動する自転車

■ 右左折時 (正面で衝突する恐れがあるときのみ)

自車の速度が約5-30km/hかつ、作動対象との速度差が約5km/h以上のとき

- ・対向する車両 (二輪車含む) ※1、歩行者、移動する自転車

※1: 対向車線側に曲がる場合のみ作動

衝突軽減ブレーキは、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。機能に頼った運転をすると、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

ご使用の前に、必ずご使用になる機種の取扱説明書をお読みください。

取扱説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

■ 踏み間違い衝突軽減システム

踏み間違い衝突軽減システムは近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の3つの機能を持ったシステムです。

近距離衝突軽減ブレーキ

約2km/h～約10km/hで走行しているとき、壁などの障害物に衝突するおそれがあるとき運転者のブレーキ操作を支援し、音と表示でお知らせします。

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能

停車時や約10 km/h以下で走行しているとき、自車のほぼ正面もしくは真後ろの近距離に壁などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともにパワーシステムの出力抑制をすることで急な前進・後退を防止します。

踏み間違い衝突軽減システムは、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎ、または見落としによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。

機能に頼った運転をすると、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

ご使用の前に、必ずご使用になる機種の取扱説明書をお読みください。

取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

■ 歩行者事故低減ステアリング

カメラにより歩行者と白線（黄線）を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態で作動します。

- ・歩行者が路肩を歩行しているときに、車両がその歩行者に向かって車線から逸脱していくとき
- ・白線（黄線）が連続しているとき
- ・車速が約10～40km/hで走行しているとき
- ・直線の道路を走行しているとき

歩行者事故低減ステアリングは、運転者の運転操作を支援するシステムです。

あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

機能に頼った運転をすると、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

ご使用の前に、必ずご使用になる機種の取扱説明書をお読みください。

取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

■ 路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は左右の白線（黄線）、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知し、方向指示器（ウィンカー）を使用せずに白線（黄色線）を逸脱、もしくは逸脱しそうになったことを判断したときに作動します。

システムはステアリングを制御して車両が車線逸脱しないように支援するとともに、マルチインフォメーションディスプレイによる警報、ステアリング振動もしくはブザー音により運転者の回避操作を促します。

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- ・白線（黄線）の場合は車速が60km/h～120km/hのとき(対向車両が走行している場合は車速が30km/h～120km/hのとき)
- ・草、砂利などの道路境界の場合は車速が30km/h～120km/hのとき
- ・直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ・方向指示器（ウィンカー）を使用していないとき
- ・システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

ご使用前に、必ずご使用になる機種取扱説明書をお読みください。
取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

■ リアワイドカメラ

後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認してください。
リアワイドカメラシステムのカメ​​ラは特殊なレンズを使用しているため、画面に表示される映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
リアワイドカメラのレンズは常にきれいにし、ふさがれることがないようにしてください。

ご使用前に、必ずご使用になる機種​​の取扱説明書をお読みください。
取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

■ オートハイビーム

オートハイビームは夜間走行時に前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動的に切り換えるシステムです。

オートハイビームが作動しているとき、以下の条件によりハイビームとロービームが自動で切り替わります。

ハイビームへの切り替え

以下の3つの条件をすべて満たすとハイビームに切り替わります

- ・車速が30km/h以上
- ・前方にライトを点灯した車両がない
- ・前方に街灯などの光がすくない

ロービームへの切り替え

以下の3つの条件のいずれかを満たすとロービームに切り替わります。

- ・車速が24km/h以下
- ・前方にライトを点灯した車両がいる
- ・前方に街灯などの光が多い

ご使用の前に、必ずご使用になる機種種の取扱説明書をお読みください。

取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

■ アダプティブドライビングビーム

アダプティブドライビングビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。
あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

システムの作動

以下の条件をすべて満たすとアダプティブドライビングビーム表示灯が点灯し、
状況に応じて自動的にハイビームの配光が調整されます。

- パワーモードがONモード
- ライトスイッチがAUTOの位置
- レバーがロービームの位置
- ヘッドライトが自動で点灯している
- 車両の周囲が暗い

アダプティブドライビングビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

- インstrumentパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリ、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

■ ブラインドスポットインフォメーション

隣接する車線後方に他の車両が走行していることを知らせ、運転者の車線変更などの操作の際の負担を軽減するシステムです。自車の車速が約20km/h以上で前進しているとき、レーダーセンサーが検知範囲内に走行している車両を検知します。

システムが車両を検出したとき以下の条件を満たす場合にドアミラー内のブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯または点滅し、点滅時は警報音が鳴ります。

点灯する条件：

- 他の車両が、自車より車速約50km/h以下の車速差で追い越しのために後方から接近してきたとき
- 約20km/h以下の車速差で他の車両を追い越したとき

点滅し警報音が鳴る条件：

ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯している状態で、検知された車両の方向に方向指示器（ウィンカー）を操作したとき

ブラインドスポットインフォメーションは状況により、車両を検知できない場合があります。直接確認をせずに車線変更を行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ご使用の前に、必ずご使用になる機種のご取扱説明書をお読みください。
取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。